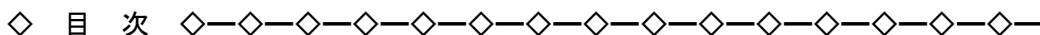


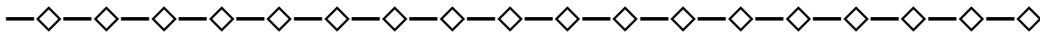
Salud（サルー）とはスペイン語で「健康」「乾杯」を意味する言葉です

同僚や友人ご家族に「Salud! えひめ」をぜひご紹介ください。

ジメジメと疎ましい梅雨が続いています。日照時間も短いこの時期ですが、陽の出ているときはなるべく日光にあたるよう心掛けることで、体内時計の働きが整えられ、より快適な睡眠をとることもできるそうです。
平年通りですと、梅雨明けまであと半月程度です。健康に留意してお過ごし下さい。



- 1. 愛媛支部からのお知らせ
- 2. 季節の健康情報
- 3. コラム ドクターすなみの脳のおはなし



愛媛支部からのお知らせ

◆協会けんぽ愛媛支部の移転について

先月号でもお知らせいたしましたが、協会けんぽ愛媛支部は、平成29年7月18日（火）に下記住所へ移転いたします。
なお、電話番号およびFAX番号に変更はございません。また、7月14日（金）までは、現住所（松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命松山ビル5階）にて通常どおり営業しています。
移転後、愛媛支部の駐車場はございませんので、申請書等のご提出は郵送にて行っていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

新住所
郵便番号：790-8546
住所：松山市千舟町4丁目6-3 アヴァンサ千舟1階

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime>

◆被扶養者状況リストの提出はお済ですか？

提出期限：平成29年7月31日（月）

被扶養者資格再確認は保険料負担軽減につながります。皆さまのご協力とご理解をお願いいたします。

被扶養者資格再確認について、詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.kyoukaikenpo.or.jp/home/g5/cat590/info290530>

◆7月28日は「世界（日本）肝炎デー」

世界保健機構（WHO）は、2010年にウイルス性肝炎のまん延防止と差別・偏見の解消や感染予防の推進を図ることを目的として「世界肝炎デー」を制定しましたが、日本でも同日を「日本肝炎デー」として、肝疾患に関する正しい知識の普及等の活動を行っています。
協会けんぽ愛媛支部では、愛媛大学医学部附属病院（肝疾患診療相談センター）

や自治体などの関係機関と協力しながら、肝炎に関する普及啓発・重症化予防に関して重点的に取り組んでいます。

<肝炎 テレビCM放送>

平成29年度肝炎ウイルス検査受検促進キャンペーンとして、テレビCMを制作しました。7月1日～31日まで、南海放送・テレビ愛媛・あいテレビ・愛媛朝日テレビにて、放送いたします。

季節の健康情報

▼時期に応じた健康情報や健康レシピをご紹介します！ぜひご覧ください。

<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/g5/cat510/h29/290701>

ドクターすなみの脳のおはなし 第114回

心に残る患者さん 12時間の手術

「人生の終末を上手に過ごす」という内容で高齢者クラブで講演をしてほしいと先日依頼を受けました。わたしは「終活」はとくに必要ないと思っているので、もっと適任な講師を探してくださいと言ったところ、そういう方の話も聴きたいとおっしゃり、考えてみますと返事をしてしまいました。

この返事をした直後、病院廊下を歩いていると、80代と思われる女性から「角南先生でしょうか」と声がかかりました。

「はい、そうですが・・・」

「わたくし、以前お世話になった中田の家内でございます。あれから元気で過ごしておりましたが、昨日高熱で救急車でこちらへ運んでいただき、肺炎ということで入院しました。危篤状態と主治医の先生はおっしゃいまして・・・」

「はいはい、中田〇〇さんですね。よく覚えています。何年ぶりでしょうか。ちょっと病室をのぞいてみます」

平成3年4月25日、脳外科外来に65才の中田さんが「頭が痛い、ふらふらする」という主訴で初診となりました。失調性歩行といって、千鳥足のようなふらつく歩行で、運動麻痺はないのですが、平衡機能がかなり侵されていました。

頭部CTでは著名な水頭症を認め、脳室系に髄液の流れをせき止める異常があるものと思われました。入院の上、頭部MRIを施行したところ、脳幹背側に脳腫瘍を認めました。

かなり弱っており、低栄養でしたので、しっかり体力をつけ、精査の後、平成3年6月5日、後頭下開頭による脳腫瘍摘出術を行いました。専門的になりますが、頸椎1番をはずす大手術となりました。午前9時に手術室に入室し、全身麻酔をかけ、体位をとり、午前10時30分に執刀しました。

「わたし失敗しませんから」と、本人には言いましたが、家族には

「脳幹にへばりついた腫瘍であり、全摘出したいが無理はできません。脳幹に障害が及べば、命に関わることになる可能性もあり、後遺症を残すこともありえます」と説明しました。

後頭骨を砕き、硬膜を開き、小脳を正中で左右に分け入ると、真っ赤な血管に富んだ腫瘍が見えました。術前に予想した通りの小脳血管芽腫と思われました。良性ですが、出血しやすく、表面を焼いて止血しては少しずつ摘出していきます。焼いて出血しなくなった部分を耳かきで少しずつはがしていく、そんな感じと想像していただけるといいと思います。

少しずつ少しずつ腫瘍は小さくなっていきます。ふと気がつくと10時30分から始めた手術は既に5時間が経過し、午後3時半を時計が指しています。ここで助手の脳外科医が交代しました。見ると器械出しの看護師も既に交代しています。しかし執刀医である私には5時間が2時間くらいにしか感じていませんでした。

摘出した腫瘍の一部を迅速標本で提出し、病理医から小脳血管芽腫との診断でした。

あと少しと思いながら、摘出していると脳幹に刺激が加わるのか、脈拍を知らせるピッピッと鳴る心音の間隔がやけに広がり、あれっと思った途端、麻酔医から「心拍30に落ちています。少し休んでくれませんか」

と声がかかりました。

それでも全摘出しようとして注意深く続けましたが、延髄にへばりついている腫瘍を取ろうとすると、心拍が30からそれ以下に落ちてしまいます。

「ここまでにしよう。目的は達成できたと思います」

その後、出血がないことを確認し、硬膜を丹念に縫い、人工骨を充填して筋層、皮膚を縫合し、手術を無事終えました。午後10時30分でした。手術時間12時間ジャスト。これがわたし1人で最初から最後まで執刀した最長記録です。途中、お茶も飲まず、トイレにも行かず、今なら到底考えられません。

患者さんはリハビリを行い、後遺症もなく、9月1日退院されました。今から思うと、入院から手術まで、手術から退院まで、すべてで4か月もかかっており、今なら半分の期間で終えただろうと申し訳なく思います。

その後しばらく通院されていまして。若い看護婦さんや事務員に電話番号を尋ねるなど、ちょい悪おやじの典型のような人物でした。

今回、660号室を訪れると、中田さんがすやすやと眠っておられました。しかし酸素吸入やら点滴やら、モニター類など多くの管につながれてスパゲッティ症候群の状態でした。声をかけましたが、目を開けることはありませんでした。

それから3日後、たった今亡くなられたと担当看護師から連絡がありました。90才でした。

再度、病室を訪れ、お別れをしました。奥さんや子供さんなど多くの家族が取り巻いていました。長男さんが

「いい人生だったと思います。65才で脳腫瘍の手術をして、それを機会に引退して80才まで、地域の世話役として忙しくしていました。この夏に卒寿の祝いを家族大勢集まってやり、本人もとても喜んでくれて。そういえば先生、父がよく言っていました。豊の上で死にたいという人もおるが、わしやあできたなら市民病院がええのう。市民病院で死ねたら安心じゃ、と・・・」

あとは涙になったが、さわやかに父の死を受け入れることができているようでした。風邪をこじらせ、入院して4日目にあっけない幕切れでしたが、苦しむことなく、家族に見守られて、素敵な最期だったと思います。

脳神経外科医 角南 典生 (すなみ のりお)

▼こちらから「Salud!えひめ」のバックナンバーをご覧ください
<http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/cat130>

□□□発行 全国健康保険協会（協会けんぽ）愛媛支部
〒790-8546 松山市三番町7-1-21 ジブラルタ生命松山ビル5階
TEL 089-947-2100（代表）
ホームページ <http://www.kyoukaikenpo.or.jp/shibu/ehime/>

▼配信停止を希望される方はこちらから
https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_1/index.do

▼登録情報を変更されたい方はこちらから
https://merumaga.kyoukaikenpo.or.jp/webapp/form/16520_kly_2/index.do
※現時点の登録情報が記載されていますので上書き入力にて変更してください。
